

1 教科目標

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

①知識・技能

社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身につけている。また、社会的事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。

②思考・判断・表現

社会的事象から、課題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

③主体的に学習に取り組む態度

社会的事象に対する関心を深め、それを意欲的に迫及し、よりよい社会を考え自覚をもって責任を果たそうとする。

3 各学年の目標

- ①個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う。
- ②民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動とのかかわり及び現代の社会生活などについて、個人と社会とのかかわりを中心に理解を深めるとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる。
- ③国際的な相互依存関係の深まりの中で、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることを認識させるとともに、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚させる。
- ④現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

4 指導計画・評価計画表

月	指導計画		評価規準（２ 評価の観点及びその趣旨①～③に対応）		評価の方法
4	(歴史分野) 第7章 現代の日本と世界	(公民分野) 第1章 現代社会と私たちの生活	(歴史分野) ①各国の動きについて公正に判断し、世界と日本を関連付けて、当時の日本のとるべき道を判断している。 ①写真や表・グラフなどを活用して、当時の生活をイメージしたり、数量的資料を積極的に活用しようとしていたりしている。 ②終戦から現代までの出来事の概要や問題について、世界の動きと関連させて理解し、21世紀の課題をまとめている。 ②戦後の日本の歩みから、時代が大きく変わる時期を見きわめ、将来の社会を公正に判断しようとしている。 ③地球市民として、世界的な視野を持つ公正な歴史観を持とうと努めている。	(公民分野) ③現代日本の特色や日本の伝統と文化に対する興味・関心を高め、それらが社会生活にどのような影響を与えているか、また、自分たちがその中でどのように生きていくかなどについて考えようとしている。 ③社会生活における物事の決定の仕方やきまりの意義について、身近な生活と関連付けてとらえたり、発表したりしている。 ②写真や図版、統計資料などから現代社会の特色や日本の伝統と文化の意義や影響を読み取っている。 ①現代日本の特色や現代社会における文化の意義や影響を理解し、その知識を身に付けている。	各单元において (知識・技能) ・中間・期末・学年末テスト、小テスト、プリント作業により評価
5	①戦後日本の発展と国際社会 ②新たな時代の日本と世界	①現代社会の特色と私たち ②私たちの生活と文化 ③現代社会の見方や考え方			(思考・判断・表現) ・中間・期末・学年末テスト ・プリント記述・調べ学習などの作業課題 ・授業中の話し合い活動への取り組み ・発表態度
6		第2章 個人の尊重と日本国憲法 ・人権と日本国憲法 ・人権と共生社会 ・これからの人権保障	(公民分野) ③身近な経済的事象から、企業の生産活動、金融の働き、国や地方公共団体の経済的役割などについて関心を持ち、経済上の諸課題について意欲的に追究しようとしている。 ②様々な経済的事象や現代の日本経済の課題について、消費者や生産者、労働者、政府、納税者などの立場から多面的・多角的に考察し、自分の考えをわかりやすく表現している。 ②個人や企業の経済活動、国や地方公共団体の経済的役割について、様々な資料を収集・選択し、企業の経済活動や日本の財政上の課題などについて読み取ったり、文章や図表などにまとめたりしている。 ①消費や労働、生産と金融の仕組みや働きについて理解するとともに、市場経済の基本的な考え方を身に付け、その考え方を活用して経済的事象をとらえている。	③人間の尊重についての考え方や法に対する関心を高め、それらを意欲的に学習し、また、現代社会における人権に関する課題について関心を持ち、追究している。 ②人権思想の展開と日本国憲法の成立について、歴史的分野での学習内容を踏まえながら、多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 ①人間の尊重についての考え方や法に関する様々な資料を読み取ったり、図表などにまとめたりしている。 ①人間尊重の考え方、社会生活における法の意義と法に基づく政治の重要性、日本国憲法の基本原理について理解し、その知識を身に付けている。	(主体的に学習に取り組む態度) ・中間・期末・学年末テスト ・プリント記述・調べ学習などの作業課題 ・授業中の話し合い活動への取り組み ・発表態度
7		第3章 現代の民主政治と社会 ・現代の民主政治 ・国の政治の仕組み ・地方自治と私たち			
9					
10	(公民分野) 第4章 私たちの暮らしと経済 ①消費生活と経済 ②生産と労働				等により評価する
11	③価格の働きと金融 ④政府の役割と国民の福祉				

12	⑤ これからの経済と社会	第5章 地球社会と私たち	① 国民の生活と福祉の向上のために国や地方公共団体が果たしている役割を理解し、その知識を身に付けている	③ 身近な生活と政治とのかかわりに関心を持ち、身の回りの社会的事象から、政党の役割や選挙の仕組み、現代日本の政治の課題について意欲的に、考えようとしている。
1	3年間の学習内容の復習	① 国際社会の仕組み ② さまざまな国際問題 ③ これからの地球環境と日本		② 議会制民主主義や多数決の原理について、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
2		終章 より良い社会を目指して		② 最近の選挙に関する話題や各政党の政権公約などについて、新聞やインターネットなどを活用して資料を収集し、まとめている。マスメディアの情報を読み取る際に、複数の情報を比較するなど、様々な角度から批判的に読み取っている。
				① 多数決の原理と運用の在り方、選挙制度、政党や世論の役割などについて理解し、その知識を身に付けている。